

Schindler, *C. eriocarpa* (Maxim.) Schindler および *C. Falconeri* (Prain) Schindler を整理し、学名として *C. speciosa* (Royle ex Schindler) Schindler を採用した。Schindler の3種は *C. Falconeri* が西ヒマラヤ、*C. eriocarpa* が東ヒマラヤ、*C. speciosa* が西から中央ヒマラヤまでに分布している。分布域が少しずつずれていることに対応してそれぞれの外観は少しずつ異なるが、それが形質の量的な差によるものであるため多数の標本で検討してみると区別点が連続し、種間の差がぼやけてしまう。分布域が広く多型で多少生態的にも差のある集団を含む種によく見られる現象であろうと思う。

9) では Baker の *L. macrostyla* (D. Don) Baker, Schindler の *C. macrostyla* (D. Don) Schindler および *C. stenocarpa* (Klotz.) Schindler について学名を整理した。従来 *C. Falconeri* の同定違いとされて採用されなかった Miquel の *C. macrostyla* が同定違いではなく、この学名の最も早い組み合わせであることを示した。*C. macrostyla* に2変種がある。一つは西ヒマラヤとネパールの var. *stenocarpa* で、萼歯と莢の形、小葉の毛が異なり、他の var. *Griffithii* はこの論文の3) で扱ったがブータン特産で莢の形と大きさとで区別される。

以上の学名の扱いについて東京大学名誉教授原寛先生にいろいろと教えていただいた。お礼申し上げます。

10) 雲南、四川、貴州に特産する *C. trigonoclada* は特徴のある種で葉柄、若枝等は無毛で明らかな翼が発達する。花は円錐花序につき、大形で黄色、花が落ちると苞がよく残っていて目立つ。これと *C. Balfouriana* は全くの同種と思われる。

#### ○高等植物分布資料 (86) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (86)

○ムラサキ *Lithospermum erythrorhizon* Sieb. et Zucc. ムラサキは日本各地の火山灰地や石灰岩地帯に野生するもので、染料や薬用として利用されて来た。近年めっきり少くなり、これの利用の材料は海外よりの輸入にたよっている。筆者等は昭和49年6月に、福知山市猪崎で、本種の開花せる野生品を発見したことは記録する価値がある。現地は洪積層の斜面で、アカマツ、ソヨゴ、ネズミサン、ヤマウルシ等の混生疎林内に10数株が見いだされた。アルカリ性の土質とは関係なき地域に発見されるのは珍しい出現であり、近畿地方では、近年伊賀上野市外の此の種の発見に続き二番目で、いづれも極めて分布上に興味あることと考えられる。

(福知山市紺屋町 天藤製薬KK. 松本憲一、大槻欽三)